はじめに

「日本一」の称号は、恐ろしいほど賞味期限の短い「生もの」です。

統計資料が充実している我が国では、ランキングを可視化することは珍しくありません。しかし、その多くは「現在の順位」という一瞬を切り取るにとどまっています。「日本一」はいつ入れ替わり、なぜ変わったのか。本書では日本を舞台に、「今」に加え、そこに至るまでの「プロセス」にまで焦点を当てました。

このように時間軸を加え、広範なジャンルを網羅して「地図で綴る通史」を試みた一般向けの著作は、決して多いとは言えないでしょう。

私は日頃、高校の教壇に立っていますが、現在の教育現場において日本地理はしばしば世界情勢の付け足しのように扱われ、「解決の見えない課題」を論じて終わりがちです。しかし、実社会を生きる大人が知るべきは、もっと血の通った知識、すなわち「なぜこの地域はこうなったのか」という変遷のダイナミズムではないでしょうか。

本書は、かつて地理に心を躍らせたすべての社会人に贈る一冊です。

電車や飛行機での移動中、ふと本書を広げ、窓の外に流れる街並みと照らし合わせてみてください。見慣れた景色の中に、変化の理由や未来の姿が浮かび上がってくるはずです。

「広く浅い知識」は雑学に過ぎませんが、時間軸と空間軸を広げ、点在する事実を地図上でつないでいくことで、それは深く豊かな「碩学（せきがく）」へと昇華します。

なお、拙著『地図化すると世の中が見えてくる』(2016年)、『地図化すると世界の動きが見えてくる』(2019年) と同様、本書の地図はすべて私自身がフリーのGIS (地理情報システム) ソフトを駆使して作成したものです。プロのデザイナーによる洗練された地図ではありませんが、地理教育の現場から生まれた「生きた地図」としての手触りを楽しんでいただければ幸いです。

故郷、現住地、出張先、あるいは憧れの旅先。

気になる場所の気になるテーマから、自由に深掘りしてみてください。本書の中に、誰かに話したくなる発見や、次なる旅の目的地が見つかれば、筆者としてこれ以上の喜びはありません。

伊藤 智章